

花木のミスト繁殖に関する研究

（第4報）発根剤の利用について

川田 計・後藤利幸・西村和明・安松 潔

（大分県温泉熱利用農業研究所）

KAWATA, K., GOTO, T., NISHIMURA, K. and YASUMATSU, K.

Studies on the Mist Propagation for Ornamental Plants.

(IV) The Experiment to Apply the Exogenous Root-Inducing Chemicals.

第2報でミスト環境下における落葉樹の発根状況について報告したが、そのなかには実用的な発根率に達しない種類もいくつか認められた。したがってこれらの種類の発根率の向上のために、発根剤の利用を検討したのでその結果を報告する。

(1) 材料および方法

供試の種類と穂木の調整は次表のとおりである。

種類	穂木の長さ cm	着葉数 枚	試験年次
レンゲツツジ	10	7～8枚	45年6月と 46年3・5月
トサノミツバツツジ	6～10	4～5	
ツクシアカツツジ	6～10	4～5	
ドウダンツツジ	10	5～7	45年6月
サンシユユ	10	2 半切り	
アメリカヤマボウシ	10	2 半切り	
ロウバイ	10	2 半切り	
ベニマンサク	10	2 半切り	

用土は褐色火山灰土壌でその理化学性は第3報のとおりである。発根剤の種類と処理法はオキシベロン（IBA）では0.1, 0.5, 1.0, 2.0%切口粉衣, 25, 50, 100 ppm浸漬, ルートン, ルチェース切口粉衣とした。水揚げおよび浸漬時間は3時間, 挿木の深さは3cm, ミストは当所の慣行法に従って散布した。

(2) 結果および考察

落葉ツツジの結果は第1表のとおりで、レンゲツツジは6月挿しでは0.5%がよく、3月挿しでは無処理が3.3%に対し1.0%処理は70%と著しい効果が認められたが、2.0%処理は全く発根しなかった。5月挿しは全般に発根率が高いが処理の効果も認められた。地下部への影響はどの処理でも根量が増加した。また、5月挿しでは吸枝の発生を促進した。トサノミツバでは3月挿しと6月挿しで0.1%処理が発根率が高く、ほかの区は処理効果は認められなかった。5月挿しは処理によりかえって発根率が低下し、根量の増加も認められなかった。ツクシアカは6月挿しの0.1%処理で90%発根したが、ほかの時期では無処理と明らかな差はなく、根量への影響も少なかった。

第1表 落葉ツツジの発根剤処理と発根率

試験年次	処 理	レンゲツツジ	トサノミツバツツジ	ツクシアカツツジ
45. 6	無処理	16.7%	20.0%	53.3%
	0.1%	50.0	40.0	90.0
	0.5	65.0	6.7	40.0
	1.0	46.7	0	20.0
	2.0	60.0	6.7	43.3
46. 3	無処理	3.3	0	0
	0.1%	50.0	20.0	3.3
	0.5	50.0	6.7	0
	1.0	70.0	3.3	3.3
	2.0	0	0	0
	25 ppm	30.0	3.3	6.7
	50 ppm	20.0	0	0
100	25.0	3.3	0	
46. 5	無処理	80.0	66.7	70.0
	0.1%	95.0	40.0	65.0
	0.5	85.0	40.0	56.7
	1.0	96.7	43.3	55.0
	2.0	93.3	50.0	63.3
	25 ppm	100.	43.3	70.0
	50	100	50.0	70.0
100	96.7	56.7	70.0	
ルートン	96.7	40.0	60.0	
ルチェース	90.0	50.0	63.3	

第2表 落葉樹のオキシベロン処理と発根率 (45.6)

種類	サンシユユ	アメリカヤマボウシ	ロウバイ	ベニマンサク	ドウダンツツジ
無処理	75.0%	95.0%	30.0%	43.3%	93.3%
0.1%	70.0	90.0	20.0	75.0	96.7
0.5	60.0	100	16.7	13.3	100
1.0	40.0	93.3	30.0	30.0	95.0
2.0	86.7	86.7	30.0	53.3	96.7

落葉ツツジ類では熟枝挿しでは切口粉衣がよく、緑枝挿しでは液剤浸漬がよい傾向が認められた。

落葉樹の処理結果は第2表のとおりである。サンシユユは2.0%処理が87%発根し、根量もすぐれた。アメリカヤマボウシとドウダンツツジは全体に発根率が高いが処理の効果も明らかで、根量も増加した。ベニマンサクは0.1%処理が75%の発根率を示し、実用性があるが、ロウバイは発根率の向上は認められないが、処理により根量は増加した。

以上のごとく処理効果は同一濃度でも種類や挿木時期により異なることが明らかとなった。また、処理効果のない種類も認められたが、多くの種類でミストと併用すれば発根率の向上は著しい。